

「輝く女性の活躍を加速する 男性リーダーの会」地域シンポジウム

秋田県の女性活躍のさらなる加速に向け、県内外の男性リーダーのネットワークを拡げることが目的に開催されます。

- 日時：1月21日（金）13時30分～15時
- 会場：秋田県庁第二庁舎8階大会議室
- オンライン（ZOOM）あり
- 参加費：無料
- 定員：会場150名／ZOOM300名

希望の方は南部男女共同参画センターにてオンライン視聴できます。是非おいでください。

令和3年度 男女共同参画センター運営事業 第2回 利用者懇談会

センター利用登録団体代表者と県職員、センター職員が話し合い、ご意見をセンター運営に反映させることを目的として開催します。

- 日時：1月24日（月）13時30分～15時
- 会場：南部男女共同参画センター
- 参加対象者：センター利用登録団体の代表者
- 講話「私たちの暮らしと地球温暖化」
照井昌子さん（あきたエコマイスター県南協議会）

令和3年度 男女共同参画社会づくり基礎講座 知ること、気付くことが大切な アンコンシャス・バイアスを学ぼう

アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見/無意識の思い込み）は誰もがもっているものです。自身のもつアンコンシャス・バイアスを知ることが男女共同参画の理解につながります。

- 日時：2月2日（水）13時30分～15時
- 会場：羽後町活性化センター
（羽後町西馬音内字中野187 羽後町役場正面）
- 参加費：無料（事前申込み）
- 講師：和泉浩さん
（秋田大学教育文化学部教授）

令和3年度 ネットワーク業務 第2回 地域連携ネットワーク会議

あきたF・F推進員とセンター利用登録団体の代表者、市町村担当者とセンターが相互に連携をはかり、男女共同参画社会推進のため情報交換と意見交換をすることを目的に開催します。

- 日時：2月21日（月）13時30分～15時
- 会場：南部男女共同参画センター
- 参加対象者：センター利用登録団体の代表者
あきたF・F推進員/市町村担当者

講座の申込みや問合せは南部男女共同参画センター ☎0182-33-7018 をお願いします。

3月8日 国際女性デー

1904年3月8日にアメリカ・ニューヨークで婦人参政権を求めたデモが起源となり、国連によって1975年に3月8日を「国際女性デー」と制定されました。

「国際女性デー」は、すばらしい役割を担ってきた女性たちによってもたらされた勇気と決断を称える日です。イタリアでは「ミモザの日」として女性に感謝を込めて、母親や妻、友人、会社の同僚などに愛や幸福の象徴でもあるミモザが贈られています。

この機会に「女性の生き方を考える日」、自身の生き方について考えてみませんか。

編集後記 雪の活用法はないかと検索したら、北海道美唄市で平成11年からマンションや福祉施設などを建設し雪冷房を行っていて、夏場の消費電力がかなりおさえられているそうです。一般家屋でも利用できて邪魔者扱いしている雪が冷房活用で電気代がうくなら、毎日の雪寄せも楽しく頑張れるなと想像しました。（小山）

あなたの“いきいき”応援します。

★きらめき★

秋田県南部男女共同参画センター通信 ★第119号

発行 2022年1月

秋田県南部男女共同参画センター
（愛称：南部ハーモニープラザ）
〒013-0046 秋田県横手市神明町1-9
TEL.0182-33-7018 FAX.0182-33-7038
http://www.akita-south-jender.org/
E-mail sagec-7002@abelia.ocn.ne.jp

新年のご挨拶

秋田県南部男女共同参画センター
センター長 井上 博子

新年明けましておめでとうございます。

日頃よりセンターのご利用、事業へのご協力をいただき心より感謝申し上げます。

今年のお正月は、離れていた家族や親せきに久しぶりに会えた、という方も多かったのではないのでしょうか。私も2年ぶりに子供たちと共にお正月を過ごしました。長く新型コロナウイルスの影響を受けていますが、ウィズコロナで上手く共存して行くのが良さそうです。コロナの影響で意外なチャンスもありました。就職を希望する秋田県の高校生の7割超が県内希望だったことです。長年、若年女性の県外流出の多さが問題視されていましたが、これには固定的性別役割分担意識が地域風土に根強く残っていることが要因の一つとも言われており、女性の生きづらさに繋がっているからだと思います。いわゆるジェンダーの不平等を感じる分かりやすい例として、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）があげられます。「組織のリーダーは男性の方が向いている」、「職場では、女性は男性のサポートにまわるべき」、「家事・育児は女性がするもの」など、性別による「こうあるべき」という決めつけや思い込みは、まだまだ家庭や職場に根強く残っているようです。女性や若者が生きづらさを感じない地域へと意識改革が急がれます。

男女共同参画センターでは「男だから、女だから」ではなく、「自分らしく、私だから」という性別に捉われることのないジェンダーの考え方や、多様な視点を持ち、誰もが生きやすい社会づくりのための講座を実施しています。また、今年度「男性の家事・育児と仕事の両立を促進するためのセミナー」や「女性管理職やリーダーを育成するための研修会」を、県の重点項目として各地域で開催しております。男性の育児休業取得に関する法改正を受けて、これから益々男性のワークライフバランスを進めた働きやすい職場環境を整えていかなければなりません。そして家事・育児・介護と、今までの固定的性別役割分担意識を払拭し、女性の活躍を推進していく必要があります。「女性の管理職やリーダーを育成するための研修会」では、働く女性のモチベーションアップや仕事への自信につながるような内容を計画しており、今後はネットワークづくりへと繋げていきたいと考えています。

本年もセンター事業へのご理解とご協力を宜しく申し上げます。
新しい年が皆様にとって素晴らしい年でありますように。

事業報告

令和3年度 地域で活躍する人材を育成するための研修会等事業

好きなことから始めてみる 女性のための起業・副業セミナー

仙北市在住のあきたF・F推進員が実行委員となり、11月24日（水）仙北市田沢湖庁舎3階で開催し、10名（うちオンライン3名）にご参加いただきました。第一部はパネルディスカッションで、コーディネーターに坂本佐穂さん（仙北市ワーク・ライフ・バランス応援フリーマガジンSぷれっそ編集長）を、パネリストに仙北市で起業されている西宮三春さん（三春と歩のがっこやさん／がっこの学校いぶりがっこ主宰）と草薨幸子さん（Happiness&Emotion代表）をお迎えしました。起業に至った経緯と起業するにあたり悩んだこと、困ったこと、良かったことや現在の苦労や悩みについてお話いただきました。第二部は富岡美津子さんの進行で、自己紹介、やりたいこと、質問コーナーなどオンライン参加の方も一緒に交流会を行いました。時間の都合で参加者からいただいた質問すべてに回答することができなかった為、後日パネリストの協力を得て、全員にQ&Aをお送りしました。参加者からは「女性がやりたいことをやれて、生き生き活動されていることが印象的でした」「点から線につながっていきける機会が出来ました、少しずつ進んでいきたいです」「長く準備をして起業した訳ではなくノウハウもなかったことなどお話を聴き、それでも起業はできるものなのだと勇気がわきました」などのご感想をいただきました。



【実行委員】坂本佐穂さん 富岡美津子さん
富木弘一さん 西宮三春さん

令和3年度 秋田県地域自殺対策強化事業

LGBTQの歴史から 誰もが生きやすい秋田を考えるゲートキーパー研修会

主催：性と人権ネットワークE S T O / 共催：特定非営利活動法人秋田県南N P Oセンター

11月13日（土）南部男女共同参画センターで、SOGI（性的指向と性自認）とジェンダー平等を啓発できる人材を養成するためのゲートキーパー研修会が開催されました。秋田県在住のらっしーさんと村田葵さんが講師となり、秋田で暮らす思いや周りの人々との関わりなどについて話されました。「性と人権ネットワークE S T O」の真木征鷹さんからは、秋田県の自殺の現状や予防対策の取組み等の紹介とゲートキーパーの役割と存在の大切さについてお話がありました。悩みを一人で抱えないように、普段からの挨拶や声かけの重要性、自殺を防ぐためには「相談」が必要なこと、多様性を受入れる地域づくりが必要なことを学びました。



心理的・社会的問題や生活上・健康上の問題を抱えている人など、自殺の危険を抱えた人に気づき適切に関わる人をゲートキーパーといいます。県では「心はればれゲートキーパー」の養成を進めています。身近な人が発するサインに気づき適切な対応をとることができる人、秋田県独自のボランティアです。

あきたF・F推進員 活動紹介

「思うこと」

平成30年度認定 佐藤 将彦さん（羽後町）

昭和61年に男女雇用機会均等法が施行された時はまだ中学生で、当時ニュースで見たり聞いたりしたかどうか覚えていません。それから6年後にバイトとして働き始めた時は、この法律が何かしらの影響があったかと思えば全くなく、それまで通り男性中心で女性は補助的な役割が多かったと思います。その後何回かの法律改正があり、平成27年に施行30年となりました。体力面、精神面（?）、法律面など、それまで男性しか居なかった・できなかった職業・職種に女性も働くことができるようになり、男性も女性だけだった所で働けるようになったと思います。そのおかげでなりたい職業に就いた人がいると思います。

数年前に女性消防士第一期生の方にインタビューをしたことがあります。「最初の頃は職場の上司・先輩・同僚がどう接していいか戸惑っていたのを感じた」と話し、「自分も同じだった」と話していました。このことは女性の職場に初めて男性が就いた場合（例えば看護師や保育）も同じだと思います。以前テレビ番組で、子どもが怪我をして病院に運ばれ処置してもらった時のエピソードを放送していました。内容はうろ覚えですが、待合室で待っていた両親が診察室から出て来た白衣姿の男性に処置のお礼を言ったのですが、その男性は「私は何もしていません」と言い両親は不思議に思いましたが、その男性は看護師で処置をした医師は女性だったという感じの内容でした。そのエピソードは「医師は男性」「看護師は女性」という先入観からだと言っていました。また、東京の観光バス会社で初めて男性のバスガイドを2名採用し研修の様子をテレビで放送していましたが、その会社では女性限定で求人募集をしていた訳ではないが、今まで女性の応募しかなかったとのことでした。これも「バスガイドは女性」という先入観になると思います。誰もが、さまざまな先入観をいかに払拭できるか？自分にとっての課題であると思います。みなさんはどうでしょうか？



登録団体紹介

野いちごの会

代表 加藤 敦子さん

野いちごの会（フラワーアレンジメントサークル）は平成31年3月に、同じお花の教室で学んでいた仲間で結成しました。



「これまで習得した技術の現状維持」と「お花に触れる機会をもちたい」との思いで、月2回センターで活動しています。令和2年12月に発表の機会をいただき、クリスマスの作品を展示させていただきました。教室で一緒だった先輩方の協力を得て、作品を作りあげたことは良い思い出です。季節の花に癒され美しい作品をつくる、小さなことに挑戦する気持ちでお花に向き合っています。（加藤）



駐車場についてのお願い

冬期間のセンター前の駐車場について、積雪量が増えると除排雪が追いつかず駐車場の一角に大きな雪山ができてしまいます。駐車スペースに限りがありますので、大変ご迷惑をおかけしますが、大人数でご利用の際は乗り合いでのご来館をお願いいたします。

